

春 秋 彩

学長就任に当たって

熊本県立大学長

梅林 誠 爾



熊本県立大学の歴史にとって非常に重要な時期に、菅野道廣前学長の後任として、9月から学長の職を拝命することになりました。学生の皆さんの元気な学びの姿に支えられながら、また保護者の方々のご支援を賜りながら、さらに前学長が残された業績を継承しつつ、教職員とともに職責を果たしていきたいと考えています。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

熊本県は、本学の公立大学法人への移行期を平成18年4月とするこゝとを含む「熊本県立大学改革基本方針」を、先の7月に決定しました。熊本県立大学の改革推進は、42.195キロのゴールが明確に意識されてくる残り10キロに入ったわけです。当事者である大学としまして、9月初旬に設置された熊本県立大学改革推進委員会などの場で、有識者の方々のご意見をお聞きしながら、県立大学としての考えを明確にしつつ、設置者と大学との共同の真剣な検討を通して、よりよい形での公立大学法人への移行を迎え、本学の教育と研究のさらなる発展を期したいと考えています。

平常にあつても改革の時にあつても、大学の本旨は勉学です。学生の皆さんが、本学の取り組みや自主的活動を通して、視野を広げ、夢を育て、一人一人の道を自ら見出し、地域社会の有為な人材として、国際社会、人類社会を共に築く一員としての自己を形成されることを、切に願っています。

Contents

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報

2004.10
VOL.21

- 1 学長挨拶
- 2 改革に向けた取組状況
- 3 教育充実のための取組
- 4 「地域交流センター」始動
- 6 就職状況
- 7 10月以降の就職支援
- 8 学部紹介
- 9 学生の声・サークル便り
- 10 後援会便り
- 11 キャンパス・ニュース
- 12 行事予定、お知らせ

熊本県立大学の改革に向けた取り組み状況

県立大学におきましては、大学を取り巻く環境が変化する中、本学自ら、『熊本県立大学の改革方策』を策定し、「教育の重視」と「地域の重視」を基本方向として改革を進めるとともに、『熊本県立大学基本構想・基本計画』を策定し、教育・研究に関する目標を定めてその充実を図っております。

今後、7月に設置者（県）が策定した『熊本県立大学改革基本方針』を踏まえ、設置者と真剣な検討を進め、ますます地域、県民の皆さまの期待に応えられる大学となるよう取り組んでまいります。

これまでの取り組み

－ 熊本県立大学 －

- 「熊本県立大学の改革方策」(H14.3)
「教育の重視」「地域の重視」を改革の基本方向とし、54の改革の具体策を設定し、実施。
- 「熊本県立大学運営協議会」(H14.11～)
学外者からなる協議会を設置し、教育や地域貢献について意見を徴取し、大学運営に反映。
- 「熊本県立大学基本構想・基本計画」(H15.10)
今後10年間の大学の教育・研究に関する目標・実施計画を定め、実施。
- 文部科学省が、平成17年4月からの環境共生学研究科博士課程を設置認可(H16.9)

(年度)

H14

H15

H16

－ 設置者（熊本県） －

- 「熊本県立大学あり方検討会議」(H14.9～H15.10)
外部有識者による検討会議を設置し、県立大の役割及びあり方等について審議し目指すべき方向性と改革の実現について報告。
- 「熊本県立大学改革基本方針」(H16.7)
「熊本県立大学あり方検討会議」の報告を受け、県立大の現状における課題と今後の方向性を基本方針として策定。

今後の具体的な取り組み

(1) 教育・研究内容

① 大学全体

- 教養教育と専門基礎教育を重視した学部教育や現実の課題に柔軟に対応できる能力の育成、フィールドワーク(実地調査)の積極的導入等、社会のニーズに対応する教育内容の検討

② 各学部

- 文学部 社会や学生のニーズに対応した学科再編等の検討 等
- 環境共生学部 県立の試験研究機関等との連携 等
- 総合管理学部 専門コース制の導入 等

③ 各研究科

- 社会人の再教育、高度職業人の養成、研究者の養成の充実 等

(2) 地域貢献

市町村、市民団体等の活動支援のための県域をフィールドとした教育研究活動や地域社会、産業界との連携推進、また共同研究、受託研究等による研究成果の積極的な還元等、地域貢献方策の検討

(3) 平成18年4月に公立大学法人化

県立大学が自主的・自立的な運営を行い、教育研究活動の活性化を図るための法人の組織運営や財務制度等についての検討

教育充実のための取組

インターンシップ

インターンシップとは、学生が在学中に就業体験する制度のことで、大学で学んだことが社会でどのように生かされているのかわかり、大学の学習を深めるとともに、仕事への適性を知って、就職へのステップとすることを目的としています。

本学では、毎年夏休みと春休みを利用し、2・3年生を中心に県内の企業や県市町に派遣しており、平成16年の夏休みには民間企業31社81人、県市町13団体36人の学生が貴重な体験をしました。期間は派遣先により異なりますが、5日間を中心に3日間から14日間まで様々です。本研修だけでなく、インターンシップの成果が確実に学生に身に付くよう学内における事前研修、事後研修にも力を入れています。

また、本学においては、平成16年度以降の入学から、授業科目(科目名:インターンシップ)として設定し、単位化しています。単位の取り扱いは卒業単位には含まれませんが、評価は、合格は「可」、不合格は「否」という評語を用います。

保護者の方への成績提供制度について

本学では、従来学生本人だけに通知していた成績(修得単位)について、GPA制度の実施を機に、平成16年度の入学生(大学院生は除く)から、ご希望される保証人(保護者)の方には、学生の在学中の成績を直接お知らせすることになりました。

送付の手続きとしては、熊本県個人情報保護

条例により、学生本人の事前の同意(成績提供依頼書の提出)が必要となりますので、平成16年度入学生の保証人(保護者)の方で、未提出の場合は、教務課(内線207)までお問合せください。

学内のネットワーク装置が高速化され各コンピュータシステムが今年度一新されました!

本学では昨年度に学内LANの高速化工事が行われ、学内の建物間が光ケーブルによって結ばれました。今年度は学内の各コンピュータシステムが更新され、学生の皆さんは最新のシステムで授業や自習を行うことができます。更新された主なシステムとしては、情報処理実習室(178台)、ゼミ用軽量ノートパソコン(50台)、英語教育用システム(51台)、環境共生学部新棟情報処理演習室用システム(33台)、居住環境情報処理実習室用システム(41台)等があります。情報処理実習室では、最新のOS、ソフトウェアを利用した情報処理教育が可能になり、開放時間帯には学生が自由にパソコンを利用できます。特に情報処理実習室3ではマルチメディアを題材とした教育とLinuxを利用したコンピュータの基礎教育も可能となりました。



インターンシップ経験者のコメント

(株)熊本放送(RKK)

総合管理学部総合管理学科3年 坂本みどり



私は熊本放送で、希望したとおりテレビ制作部に配属され、実際の番組作りの裏側をそのまま見ることができました。そこで、1つの番組が出来るためには多くの時間と人数が必要で、普段何気なく見ている番組の裏側には、たくさんスタッフの苦労や努力があるのだと実感しました。また、カメラの使い方からディレクターの仕事の範囲、最新PCでのデジタル編集など、見るものから知るものまで全てが新鮮で、特に驚いたのは職場の雰囲気の良いので、番組の緊迫した空気の中での和やかな社員の皆さんには、とても感動しました。

将来は番組制作に携わりたいと考えているので、フロアディレクターやタイムキーパーの仕事を細かく教えて頂き、とても勉強になりました。短い期間のインターンシップでしたが、目標が番組の制作の過程に少しでも参加することだったので、色々な番組の見学だけでなく、ケーティングやテロップ制作等をさせていただき、目標が達成できたのも感動の一つです。

また、出会う方それぞれにたくさんの質問をすることができ、私なりにとても充実した日々を過ごせたと感じます。制作の方々から、人の心を動かす「モノ作り」の素晴らしさを改めて教わったことも大きな成果だと思えます。そして放送業界はデジタル化により大きな変化を迎えますが、デジタル元年(2006)の新社員になれるように頑張ろう、と以前にも増してさらに意識を高めることができました。

が動き出しました！

トナーシップの実現～

本学では、地域貢献を組織的に進めるため、総合相談窓口として「熊本県立大学地域交流センター」を設置しています。お気軽にご相談ください。

行政を対象とする事業

～地域課題の改善を支援～

- 本学教員が地域の課題を調査研究し、報告を行う**受託研究**
(※実施可能なテーマについては、次頁を参照)
- 学生の視点から地域の課題を捉え解決策を提言する**受託調査**
- **研修・講演会講師の派遣**
- **各種審議会等委員の就任**
- **社会人学生の受入制度**を活用した大学への職員派遣研修

県民を対象とする事業

～生涯学習の場を提供～

- 正規の授業を受講できる**授業公開講座**
- 著名な研究者の話を聴講できる**公開講演会・環境共生フォーラム**
- 各地域で本学教員の講演を聴講できる**地域講演会**
- 社会人の就学ニーズに応えた**社会人学生の受入制度**

熊本県立大学 地域交流センター

- 地域のニーズを受信し、大学からの情報を発信
- 地域の課題解決を支援

地 域

社 会

知識

技術

情報

企業を対象とする事業

～専門的知識と技術を提供～

- 企業等から特定の課題の調査・研究委託を受け行う**受託研究**
- 本学の教員と知識と技術を共有し、共同で行う**共同研究**
- 本学の教員の指導を受け、施設を利用できる**研究員受入制度**
- **研修・講演会講師の派遣**
- **教育研究奨励寄附金**

小・中学校、高校を対象とする事業

～教育の質の向上を支援～

- 大学の授業を高校等で体験できる**出前講座**
- **研修・講演会講師の派遣**

「地域交流センター」

～地域社会とのパー

行政を対象とする実施可能な研究テーマ例

【地域の文化に関する研究】

- 江戸時代までに出版、書写された書物の調査
各地域に保管される古典籍(特に文学・語学関係資料)の整理、さらには目録化や活字化を行います。
- 地域のことばを記録する
地域における言語について、新しいことばの用法がどのように広がっているのかを、各世代間の認識の差違を踏まえながら記録・分析します。
- 民話の収集と分析
口頭で伝えられた民話は今や消滅の危機に瀕しています。人物設定や場面の小さな特徴が地域の歴史を語ることもあるのです。まずは記録することが大切です。

文学部

地域の文化について、特殊性と普遍性を見定めながら、その発展の糸口を探ります。また、教育問題解決のための知見の整備をサポートします。

【英語教育に関する研究】

- 英語を学ぶこと、その意義と手法
各自治体の英語教育への取組みを検証し、小学生から社会人までの各世代に応じた教育システムを構築します。

【学校教育に関する研究】

- 学校事件から見た教育の歴史
地域で起こった学校事件を再確認し、現在の教育問題との関係性を考察します。

【生態系に関する研究】

- 干潟の基礎生産並びに環境浄化活性
- 干潟及び海底堆積物中の微生物の活性
- 干潟の生態系のアセスメント
- 森林生態系の現状評価とその適正管理方策
- 廃棄物とリサイクル

環境共生学部

地域及び県の要請を受け、各地域の環境に関わる諸問題について、調査研究を行い、研究成果を通して地域の環境創造を図ります。

【居住環境に関する研究】

- 棚田を持つ農山村における生活環境
- 地域の屋外広告物やサインのあり方
- 干潟の生態系のアセスメント
- ユニバーサルデザインに配慮した案内標識

【食・健康に関する研究】

- 健康食品・機能性食品と病気の予防
- 子どもの生活習慣と身体運動
- 地域高齢者の食生活と健康
- 地域特産農産物の品質向上
- 地産地消と食の安全性

【社会システムに関する研究】

- NPO等との協働システムの構築に関する調査研究

総合管理学部

行政改革、福祉、まちづくり等、地方分権化・財政難という状況の中で市町村が有する課題を行政・経営・経済・情報の分野から多角的に分析し、これからの行政運営の方向性を探ります。

【行政運営に関する研究】

- 市町村職員の政策法務能力を向上させるための方策に関する研究
- 市町村における行政運営の調査研究の効率化に関する研究

【地域の福祉に関する研究】

- 介護保険制度の実施と課題に関する調査研究

住所:〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号 熊本県立大学内「熊本県立大学地域交流センター」
TEL:096-383-2929 FAX:096-384-6765 URL:<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/chiikikoryu/>
E-mail:souki@pu-kumamoto.ac.jp

就職状況

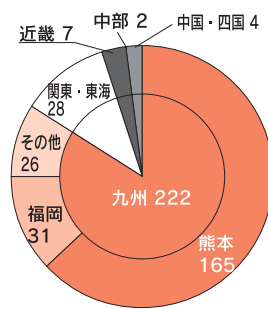
1. 過去3年間の就職状況内訳

	平成13年度						平成14年度						平成15年度													
	文学部		生活科学部		総合管理学部	合計	文学部		環境共生学部		総合管理学部	合計	文学部		環境共生学部		総合管理学部	合計								
	日本語日本文学科	英語英米文学科	食物栄養学科	生活環境学科			日本語日本文学科	英語英米文学科	生態・環境資源学専攻	居住環境学専攻			食・健康環境学専攻	日本語日本文学科	英語英米文学科	生態・環境資源学専攻			居住環境学専攻	食・健康環境学専攻						
進路状況	卒業生総数						35	34	39	41	253	402	30	37	24	34	36	301	462	40	34	20	35	40	276	445
内訳	1. 就職希望者数						26	21	34	35	195	311	19	28	14	21	22	230	334	30	25	7	25	27	213	327
	決定者数						17	16	32	23	165	253	16	22	14	15	21	203	291	22	17	7	20	27	170	263
	就職率						65.4	76.2	94.1	65.7	84.6	81.4	84.2	78.6	100	71.4	95.5	88.3	87.1	73.3	68	100	80	100	79.8	80.4
内訳	2. 進学希望者数						3	5	1	3	6	18	5	4	9	8	9	4	39	3	3	12	7	7	6	38
	3. その他・不明						3	7	3	2	15	30	2	3	1	4	2	32	44	1	4	1	2	0	21	29

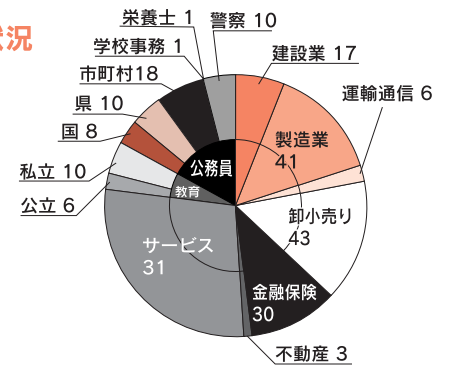
※就職率：決定者数／就職希望者数（就職希望者数は公務員志望者、教員志望者数を除く）

2. 地域別・業種別就職状況（平成15年度）

地域別就職状況



業種別就職状況



3. 過去3年間の主な就職先一覧

文学部

- 日本語日本文学科** 熊本県教員・各県教員・各市職員・ウルトラハウス・関西語言学院・九州産業交通・熊本ファミリー銀行・国際協力事業団・ジオス・JAL九州サービス・私立高校教員・昴・東京海上火災保険・ニュースカイホテル・肥後銀行・ベネッセコーポレーション ほか
- 英語英米文学科** 熊本県教員・各県教員・各市職員・RKKコンピューターサービス・イーオン・近畿日本ツーリスト・熊本県経済連・熊本ファミリー銀行・熊本YMCA・雇用促進事業会・JAL九州サービス・私立高校教員・東京海上火災保険・日本航空・福岡エアサービス・メディアプレス・リクルート ほか

環境共生学部

- 生態・環境資源学専攻** 熊本県教員・化学及血清療法研究所・鶴城・環境調査研究所・サントリープロダクト・国土環境・西部環境調査・同仁グローバル・ハタシ・パナファームラボラトリーズ・マテラル・みなまた環境テクノセンター ほか
- 居住環境学専攻** 穴吹工務店・岩永組・九建ホーム・国際協力事業団・私立高校教員・新産住拓・積水ハウス・全日本トラベル九州・タカラスタンダード・タマホーム・ダイワ建設・農山漁村文化協会・東日本ハウス・本田設計コンサルタント ほか
- 食・健康環境学専攻** 熊本県教員・各県教員・各市職員・各種病院栄養士・熊本県成人病予防協会・五木食品・お菓子の香梅・化学及血清療法研究所・熊本製粉・再春館製薬所・私立高校教員・日清医療食品・マルキン食品・丸美屋・明治製菓 ほか

総合管理学部

- 総合管理学科** 国家公務員・熊本県教員・熊本県警察官・熊本市職員・各県教員・各市町村職員・アリコジャパン・NTTドコモ九州・化学及血清療法研究所・熊本ファミリー銀行・熊本県民テレビ・熊本第一信用金庫・熊本県経済連・熊本計算センター・熊本情報処理センター・熊本リコー・近代経営所・金剛・サントリー・セブンイレブンジャパン・全日空トラベル九州・地域経済センター・日本赤十字社熊本県支部・日本マクドナルド・西田鉄工・野村証券・肥後銀行・レイメイ藤井 ほか

10月以降の就職支援

■ 3年次就職支援イベント

3年次就職セミナー

10月から2月にかけて3年次対象に就職セミナーを実施します。

第1部 就職活動スタート編

10月から12月までは週に1回、自己分析から面接対策まで、就職活動に必要とされるテーマについて講演・演習形式でセミナーを実施します。

また、公務員合格者発表会、OB・OGと学生との就職懇談会等を実施します。

第2部 研究実践編

1月には、特定の業種、職種を対象にした講座やOB・OGとの懇談会等、自由度の高いユニークなテーマのイベントを企画実施します。

第3部 直前集中編

後期試験後の1週間を利用して、集中的に直前対策を行います。

就職活動直前最新情報ガイダンス・直前対策セミナー（応募書類の書き方・面接対策）・学内企業説明会・集団模擬面接・内定者(合格者)就職活動発表会・OB・OGとの懇談会等

この他に、学内模試(随時)、福岡地区合同企業説明会へのバスツアー(2~3月)等も実施する予定です。

■ 就職対策講座

公務員講座(2・3年次対象)

開講時期：2年次平成16年11月~平成17年10月 3年次平成16年10月~平成17年3月

公務員受験予備校として実績が高い外部業者と提携し、良質な講義を安価に提供します。2年生には公務員試験の主要5科目について演習を交えたビデオ講義、生講義を実施し、3年生には学内外講師により実践的な問題等解説講義を行います。

また、希望者には、合宿、模擬試験、二次試験対策(面接指導等)を行います。

簿記検定講座(3級・2級)

検定試験に向け、学内講師による生講義形式で行います。1年生から受講できます。

卒業生からのメッセージ

「日々の経験を大切に」



株式会社 近代経営研究所

谷口 朋治 さん

(平成13年 総合管理学部卒)

現在、私は各関与先様を訪問し、税務会計を中心に経営の指導・助言等を行い、利益追求のサポートをする仕事をしています。企業のトップの方々と直接会話ができ、日々こちらの物の見方や考え方を享受頂ける職業の特典があるとともに、高いレベルの回答が必要になり、成果をあげなければなりません。そのため、当社では専門分野の勉強会や人間性を磨く研修会等を日常的に行っています。自己啓発・人的ネットワークの構築ができる無限の可能性を秘めたこの仕事を忙しくも楽しく行っています。

大学生の皆さんには、学問の習得とともに少しでも実社会を覗いて頂きたいです。例えば、色んなアルバイトをする、ボランティア活動等に参加する、そして遊ぶ等々。

そこで幅広い見聞を広め、創造力を養い、人としての魅力を高めていって下さることを願います。

特に県立大生は、スマートで素直さをもった純粋なイメージがあります。これらに泥臭さや粘り強さを備えるとともに他人を思いやる心や感謝の気持ちを胸に秘め、社会へ飛び立つて頂きたいと思っています。



総合管理学部長
中宮 光隆

10周年を迎えた総合管理学部

熊本県立大学総合管理学部は、アドミニストレーション学の研究・教育を標榜するわが国唯一の学部として平成6年4月に開設され、今年で10周年を迎えました。学部開設4年後の平成10年に総合管理学部を基礎とする大学院アドミニストレーション研究科修士課程が、さらにその2年後には同博士後期課程が設置されて（修士課程は博士前期課程に改め）今日にいたっています。平成16年3月までの総合管理学部卒業生は1,920名に達し、大学院博士前期課程修了者（修士学位授与者）は69名、同博士後期課程修了者（博士學位授与者）は5名となっています。今年5月20日に10周年記念として、東京大学総長佐々木毅氏の講演会と、熊本県知事をはじめ産業界、県内高校、それに設置者熊本県の関係者等多数のご出席のもとに盛大な祝賀会を開催しました。さらに総合管理学部教員（退職者を含む）執筆による記念論文集『新千年紀のパラダイム―アドミニストレーション―』（上下2巻、九州大学出版会）を出版しました。



時代の要請に対応

国際化・高齢化・情報化が急速に進展する昨今、ますます多様化・複雑化する社会の諸課題を解決するためには、広い視野を持ち、総合的かつ創造的に判断する能力と高度なスキルが求められています。このような時代の要請に応えるために設置された総合管理学部の教育研究対象は、欧米ではすでに多くの大学で取り上げられている「アドミニストレーション」です。われわれ総合管理学部は、これを「パブリック・アドミニストレーション（公共行政）」と「プライベート・アドミニストレーション」（「ビジネス・アドミニストレーション（企業経営）」と「ノン・プロフィット・アドミニストレーション」からなる）を包括・統合したものと特徴付け、その理論的深化とわが国への普及・情報発信を行うつつ、効率性や経済性を追求する経営マインドと公共精神や法律感覚を併せ持つバランスのとれた人材養成を目指しています。

広く・深く・分かりやすく

―カリキュラム改革

総合管理学部では、つねに教育や研究のあり方について点検してその改善に努めてきました。平成15年度にはカリキュラムの改訂を行い、総合性という学部の理念を基本にしつつ、より分かりやすく同時に専門性を深めるために「緩やかなコース制」とともに、学生諸君の社会に対する関心を高め認識を深めるためにフィールドワークを導入するなどの改革を行いました。研究分野でも総合管理学部の教員は、

多種多様な課題に対応しています。

熊本県や県内市町村からの委託調査・研究では、教員だけでなく学生とともに行うテーマにも挑戦して成果を上げています。また多くの各種審議会・懇談会の委員、さらに自治体職員や民間の社員研修等の講師を務めるなど、研究成果の地域への還元にも努力しています。

これらを通じて総合管理学部と大学院アドミニストレーション研究科は、地方分権化とグローバル化が進展する今日、地域に根を張り、世界水準の人材と情報を送り出すための教育と研究を続けています。

総合管理学部のトピック



総合管理学部・小泉和重助教授は、本年9月、東京市政調査会から「藤田賞」を受賞しました。受賞の対象になったのは、小泉助教授の著書『アメリカ連邦制財政システム―「財政調整制度なき国家」の財政運営―』（ミネルヴァ書房、2004年2月刊）です。藤田賞は、地方自治、地方財政および都市問題に関する新人の研究を奨励するため、1975（昭和50）年に設けられ、今回は第30回になります。また、この賞は、地方財政の権威、故藤田武夫氏等から寄贈された基金をもとに、毎年、前年度中に刊行・発表された著書・論文を選考委員会が審査し、原則として著書1点、論文3点以内に与えられるもので、この分野の若手研究者の登竜門と言われています。小泉助教授の今後の活躍が期待されます。



学生の声



鹿本町での実施調査に参加して

総合管理学部3年

山下 雅史さん



今回、私が所属するゼミナールでは、鹿本町に2泊3日の日程でフィールドワーク調査に行きました。

調査の目的は、鹿本町の観光振興です。鹿本町には、多くの観光資源があります。例えば、温泉施設、レストラン、物産館がひとつになった「水辺プラザかもと」。町のシンボルである石の風車がある「一本松公園」。そして、伝統ある「来民商店街」です。これらの観光資源を若者の視点からうまく結び付け、観光客の回遊性を高めていくことが調査の課題となりました。

これまでの3年間の学生生活ではほとんど机に座って先生の話聞くことばかりでしたが、今回のフィールドワークにおいて、役場の方や商工会の方と直接話をする機会があり町民の方の町の振興に対する熱い思いを聴くことができました。

地域の現場で直接、人と接して学ぶことを経験できたことは、大変有意義なものでした。今回の調査結果を基にした私たちの提案がこれからの鹿本町に少しでも役立つことができたならば幸いであると思います。



県政モニターを通じて学んでいくこと

総合管理学部 総合管理学科3年

吉田章弘さん



私は、平成16年度熊本県本市地域では20歳代初のモニターに選定されました。県政モニターは地域における課題等について、意見や提案・評価をするもので、モニター会議の他に、パブリックコメントやアンケートへの協力、現地視察等に参加していくものです。

先日、私は「第1回熊本元気づくりトーク」に参加しました。会の始めに潮谷知事から県政概要の説明があり、少子超高齢社会の現実や、国の「三位一体の改革」の影響、九州新幹線全線開業による県政発展の可能性などの、県を取り巻く環境について詳しく知ることができました。続いている知事との意見交換会では、私は意見発表者8人のうちの1人として、暮らしの原点「安全・安心なまちづくり」というテーマから、熊本県の防災力について質問することができました。知事は私の疑問に対し丁寧に説明して下さいました。

この会には、約60名の各地域のモニターの方が参加されており、性別を問わず幅広い年代からの様々な職種の方の意見を聞くことができました。学生である私にはすべてが勉強でした。

これからも県政に対して未熟ではありますが、学生という若い立場からの意見を出していきたい、充実した学生生活を送りたいと思います。

学生の表彰

文学部英語英米文学科4年 **伊東 裕起さん**
 (表彰内容)第8回「草枕」国際俳句大会 外国語部門 特選
 (受賞作) : crescent
 the daybreak brings the horizon
 on a seagull's beak

総合管理学部総合管理学科1年 **坂口 仁寿さん**
 (表彰内容)毎日佐川急便杯争奪第48回全日本学生本因坊決定戦 優勝

●サークル便り●

吹奏楽部



こんにちは。「少ない人数でも演奏を楽しみ、演奏以外も楽しむ」をモットーに活動している、吹奏楽部です。

少人数のサークルですが、学業の忙しい中、充実した活動をしています。他大学と合同の演奏機会も多く、交流も盛んです。

サークルの活動の中で一番大きな演奏会は6月のポップスコンサートと7月のコンクールです。ポップスコンサートは熊本大学など県内4つの大学の吹奏楽部が主催して行う合同演奏会です。吹奏楽部の楽しさを伝える事を目的に行っています。

評価の場であるコンクールでは九州大会出場を目指して、一生懸命練習します。今年の吹奏楽コンクールでは人数が少ないながらも編曲などを工夫し、一生懸命演奏したことが評価され、審査員特別賞を受賞しました！

また卒業式・入学式の式典や、街の中で演奏する吹の日イベントなどで活動しています。

演奏以外のイベントは新年会、各種打ち上げ、忘年会、そして今年度は阿蘇に合宿へ行きました。練習後に趣味の話で盛り上がる事も多く、充実した生活を送っています。



環境共生学部 居住環境学専攻 3年

部長 **岸野 麻衣子さん**

後援会便り

後援会とは、

- 本学在学生の父母またはこれに準ずる者を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

平成16年度後援会評議員会、総会の開催

去る6月12日に、学内で評議員会及び総会が開催され、評議員25名、会員163名の方に参加いただきました。平成15年度事業報告、収支決算、平成16年度事業計画、収支予算及び役員の変更、新評議員の選任について審議され、いずれも承認されました。

また、総会終了後には各学部に分かれ、学部長はじめ教員数名と会員の方との懇談会が行われ、質疑応答等活発な交流が行われました。

平成16年度後援会役員

会 長	永 田 好 文	常任評議員	梅 林 誠 爾	(学 長)
副 会 長	藤 野 節 雄		豊 田 貞 二	(事 務 局 長)
	吉 田 伸 夫		元 吉 瑞 枝	(文 学 部 長)
監 事	津 留 伴 一		大 和 田 紘 一	(環 境 共 生 学 部 長)
	今 井 敬 史		中 宮 光 隆	(総 合 管 理 学 部 長)
			古 賀 実	(学 生 部 長)

平成16年度(前期)の主な実績

1 就職対策

・各種講座の実施

公務員講座、各種資格講座、マスコミ講座等を実施しています。一部講座については、受講料を助成しました。

・インターンシップ事前研修の実施

夏休みのインターンシップ研修生等を対象に、ビジネスマナー講座を実施しました。

・1、2年次対象の就職支援

キャリアマップ(低学年用キャリア形成支援ツール)受検者に対し、受検料を全額助成しました。

・3年次

R-CAP(適職診断プログラム)受検者に対し、受検料を全額助成しました。また、就職活動テキストを購入し、後援会員に配付しました。

・就職資格取得講座

資格取得をした学生8名(TOEIC®730点以上3名、ファイナンシャルプランナー1名、司書1名、中国語検定1名、ハングル能力検定2名)に助成金を交付しました。

2 学生生活支援

・サークル助成

44サークル(文化系19、体育系25)に助成金を交付しました。

3 国際交流推進

・海外留学・研修助成

海外の研修機関に留学・研修した学生6名(オーストラリア3名、アメリカ3名)に助成金を交付しました。

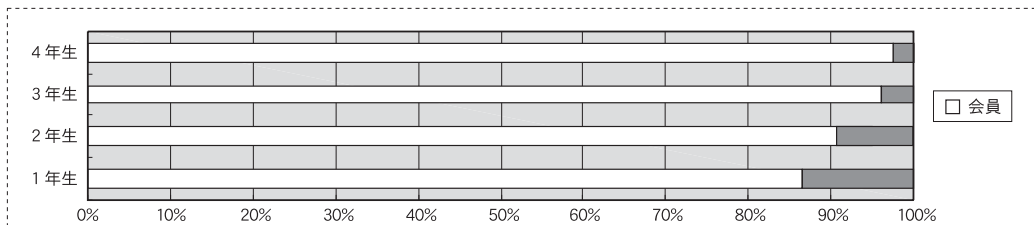
平成16年度事業の新たな動き

「共同自主研究推進助成事業」の新設

- ・ 学生の自主的な共同研究活動に対し、助成金を支給する制度です。
- ・ グループ単位での申請となります。学生は、所属の学科専攻に縛られることなく、自由かつ自主的に研究テーマを選定することができます。
- ・ 1申請当たり、25万円を限度に助成します。助成金の管理についても学生が行うことになります。
- ・ 今年度については、募集期限を10月29日としています。

後援会員の状況

平成16年9月1日現在 会員の加入状況は次のとおりです。



会員は、会費納入者数(一部納入を含む)

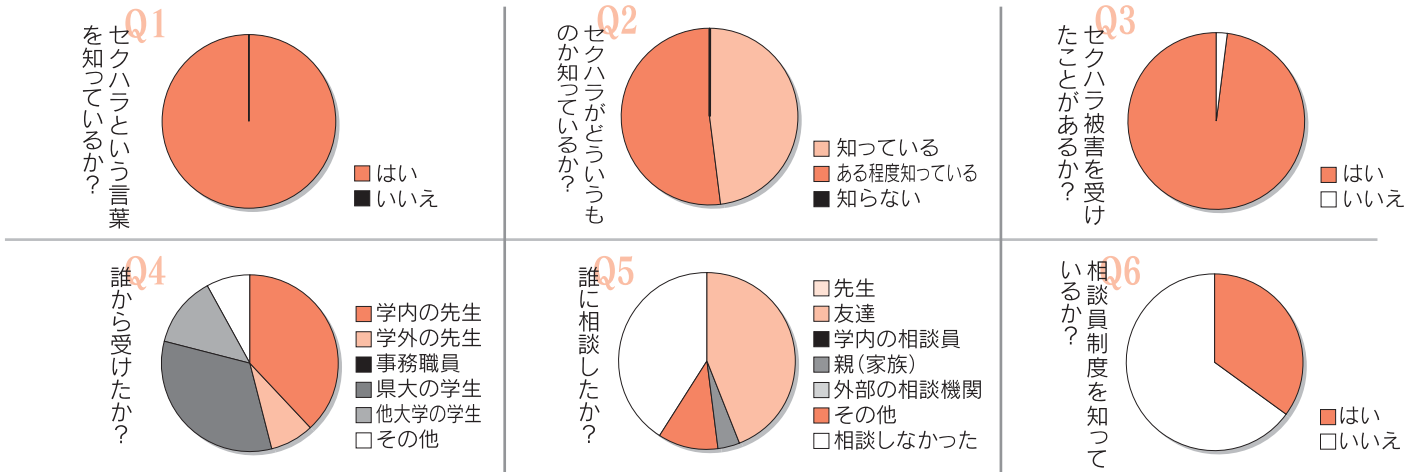
後援会事業は、会員の皆様によって賄われており、本会の活動を支えていくためには、皆様のご理解とご協力が不可欠です。後援会会費及び納入方法等については後援会事務局までお問い合わせください。

● 後援会事務局 熊本県立大学内 中島(内線237)・上杉(内線204) ●

セクシュアル・ハラスメントアンケートを実施

4月のオリエンテーションで本学生を対象(学部の新入生を除く)にセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)に関するアンケートを実施しました。結果は下記のとおりです。

セクハラに関するアンケート調査の概要グラフ(学生)



セクシュアルハラスメントの防止について

本学のセクシュアル・ハラスメント防止委員会では、セクハラの防止に向けて着実な成果につなげていくために、まず、大学におけるセクハラの実態を把握する必要があるとして、4月のオリエンテーションで学生を対象(学部の新入生を除く)にセクハラに関するアンケート調査を実施し、5月には教職員へのアンケート調査を実施しました。

調査結果によると、セクハラは飲み会等のアルコールが出る機会が多く発生しているようですので、サークルやゼミの飲み会では、アルハラやセクハラには十分注意するよう呼びかけています。

本学では、セクハラの防止に向けて、防止委員会と相談員制度を設けて取り組んでおり、学生には、相談員の名簿を含めて、学生便覧に掲載して周知しています。特に、自分ではセクハラという認識がなくても、相手は精神的に傷ついてしまう場合があることを十分に認識して行動するよう、教員、学生に働きかけています。

もしも、被害にあつてしまったり、相談したいことがある学生は、相談員や保健師に相談することができます。相談員は所属学部等に関係なく選ぶことができます。解決方法や解決に携わる人の範囲などについては相談者の要望を聞いて、相談者の不利益にならない解決が出来るよう配慮していきたいと考えています。相談は、匿名や友人・保護者の方を通じてでもできます。また、保健室では、セクハラも含めて様々な学生の悩み事への相談を受けており、E-mailでの相談もできます。

セクシュアル・ハラスメント防止委員会では、相談員制度の認知度や活用度が低いというアンケート調査の結果を受け、広報活動に力を入れるとともに、被害者のプライバシー保護、被害者への不利益の防止及び被害者の救済に重点を置いた相談員の対応マニュアルを作成するなど、被害者が相談しやすい制度となるよう、相談員制度の改善を進めていくことにしています。

その他、今後の対策としては、アンケート調査を毎年実施し結果を公表すること、セクハラ防止研修の実施、セクハラについての啓発など広報の充実による予防対策や、研修などによる相談員の質の向上などの被害者救済対策等を計画的に実施していく予定です。

外国語教育センターからのお知らせ

TOEIC®を受験しよう!

TOEIC®(トリーク Test of English for International Communication)は、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界基準のテストです。TOEIC®には、各団体が日程や場所を自由に設定して試験を行うことができる団体特別試験制度があり、外国語教育センターでは、この制度を利用して、年2回、学内でTOEIC®IP(団体特別試験)を実施しています。

このTOEIC®IP(団体特別試験)は、公開テストより安価に(公開テストの受験料は6,615円ですが、この団体特別試験は3,150円で受験することができます)、そして場所も本学で受験することができますので、就職活動に活用したい人や、現在の英語力を測定したい人は、ぜひ受験してください。

●平成16年度第2回外国語教育センターTOEIC®IP実施予定

- 試験実施日 12月18日(土)
- 試験場所 学内
- 受験申込期間 11月10日(水)~11月30日(火)
- 受験料 3,150円
- 問い合わせ先 外国語教育センター 2階 LL準備室

※期日等変更となることがあります。詳細は後日、掲示等によりお知らせします。

●テープライブラリをご存じですか?

外国語教育センター2階のテープライブラリは、外国語を学びたい学生が自由に自習できる施設で、ビデオデッキ(キャプション付きビデオも視聴できます)、カセットデッキ、DVD、パソコン等の機材を備えています。

約5,000本のビデオ、カセット、CD、CD-ROM等の語学関係ソフトを揃えており、またCNNの視聴もできます。

月	日	内 容
10月	1日	後期授業開始
	4日~6日	インターンシップ事後研修会(ディスカッション編)
	2・3日	大学院アドミニストレーション研究科入学試験(秋季募集)
	5日	R-CAPフィードバックセミナー
	7日	公務員講座説明会、講演会
	上旬	簿記講座開講(2級、3級)
	中旬	TOEFL®対策講座・留学対策講座開講(~1月)
	12日	3年次就職ガイダンス
	//	公務員合格者発表会
	13日	キャリアアップフィードバックセミナー
	14日	インターンシップ発表会
19日~12/21	3年次就職セミナー(就職活動スタート編)(毎火曜)	
20日	大学院文学研究科入学試験(秋季募集)	
21日	モンタナ州立大学留学説明会 公務員講座開講(3年次 H17.3まで)	
11月	1日	公務員講座開講(2年次 H17.10まで)
	上旬	3年次進路・就職個別ヒアリング(~1月)
	12日	第2回地域講演会(姫戸町)
	13日	学園祭「白亜祭」(~14日)
	中・下旬	OB、OGと学生との就職懇談会
	20日	公務員模擬試験
	下旬	九州インカレ冬季競技大会
	27日	TOEFL®ITPテスト
28日	第4回地域講演会(植木町)	
12月	上旬	外国人留学生との交流会
	5日	特別選抜(推薦、社会人、帰国子女)入学試験
	11日	公務員模擬試験
	18日	第2回TOEIC®IP
	24日	冬季休業(~1月8日)
	27・28日	公務員講座宿舎
1月	8日	公務員模擬試験
	11日	授業再開
	15・16日	大学入試センター試験
	11・18・25日	就職セミナー(研究実践編)
	31日	授業料第3期分納制限
//	後期試験(~2月10日)	
2月	5・6日	大学院アドミニストレーション研究科入学試験(春季募集)
	5日	大学院環境共生学研究科博士前期課程入学試験(春季募集)
	6日	大学院環境共生学研究科博士後期課程入学試験(春季募集)
	上旬	平成17年度授業公開講座(前期・通年)募集(~2月下旬)
	16~20日	3年次就職セミナー(直前集中編)
	15日	大学院文学研究科入学試験(春季募集)
	//	特別選抜(私費外国人)入学試験
	19日	公務員模擬試験
	20日	警察官模擬試験
	25日	一般選抜入学試験(前期日程)
	中旬	モンタナ州立大学ボーズマン校冬期研修派遣(約3週間)
下旬~3月	インターンシップ(1~2週間)	
下旬	祥明大学短期留学生派遣(1年間)	
3月	12日	一般選抜入学試験(後期日程)
	15日	卒業式(於:熊本県立劇場)
	25日	春季休業(~4月8日予定)
	26日	公務員模擬試験
	27日	警察官模擬試験

* 期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板により確認するか、担当課までお問い合わせ下さい。

■春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春山の万花の艶と秋山の干葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学

発行:熊本県立大学
〒862-8502熊本月出3丁目1番100号
TEL.096(383)2929(代)FAX.096(384)6765
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

16 総 熊本大

③ 004

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

●公開講座

■公開講演会

国内の著名な方を本学に講師として招聘し、学生及び県民の皆さんに公開しています。(受講料は無料です)

	開催日時	会場	テーマ	講師名
第1回	平成16年10月25日(月) 12:50~14:20	中講義室4	生産者と消費者を結び新しい農業生産システムを考える	熊本市農政課園芸課委員 宮田 喜代志
第2回	平成16年10月28日(木) 14:30~16:00	17番講義室	講談の中の幽斎・清正 — 話芸をとおして学ぶ新熊本学 —	上方講師 旭堂 南海

■地域講演会

本学の教員を県内の各市町村へ派遣し、市町村と共催により、地域住民の方々が興味をお待ちの文化・環境・教育等についての講演会を無料で公開しています。

	開催日時	会場	テーマ	講師名
第1回	平成16年10月22日(金) 13:30~15:00	天草町中央公民館	歩きましょう! 貯筋しましょう!	環境共生学部 教授 重松 三和子
第2回	平成16年11月17日(水) 9:00~11:00	芦北町社会教育センター	生活習慣病(成人病)予防のための食事と運動	環境共生学部 教授 鈴木 公

■授業公開講座

本学では、県民の方々に対して、大学の正規の授業を公開しています。半期(4月~7月又は10月~1月)又は通年(4月~翌年1月)継続して、本学学生と一緒に受講できます。受講生の募集は、年に2回(2月と8月)行います。平成17年度(前期・通年)講座の募集は平成17年2月上旬~下旬の予定です。

・受講料(1講座につき)

半期 5,000円 通年 10,000円

●第40回白亜祭のご案内

第40回白亜祭実行委員長
(総合管理学部3年) 野田 敬信さん

今年は記念すべき第40回目の白亜祭となります。テーマは「感謝~祭・オ・彩~」です。皆様に楽しんでいただけるよう、名前負けしない学園祭を目指します。代々続くミス・ミスターコンテスト、また来場者も参加できるクイズ大会やカラオケ大会などの楽しいステージ企画を準備しています。また、バンド演奏にプロ顔負けのダンスといった学生の活躍も必見です。そして「いつもここから」による芸能人お笑いライブ。会場を爆笑の渦に巻き込みます。

今年は演出にこだわり、例年以上に盛り上げたいと思います。模擬店なども盛りだくさん、見応えのある展示もあります。是非とも会場まで足をお運びください。日時は11月13・14日(土・日)です。たくさんの方々のご来場お待ちしております。

ご意見・感想募集

本誌についてのご意見・ご感想を下記にお寄せください。みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていきたくと考えておりますのでよろしくお願いたします。

〒862-8502(住所記載不要)

熊本県立大学地域交流センター「春秋彩」担当行

FAX:096-384-6765

E-mail:souki@pu-kumamoto.ac.jp